

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年11月13日
【四半期会計期間】	第15期第3四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）
【会社名】	ルーデン・ホールディングス株式会社
【英訳名】	RUDEN HOLDINGS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西岡 孝
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿7丁目22番36号 三井花桐ビル4階
【電話番号】	03(5332)5377(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐々木 悟
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿7丁目22番36号 三井花桐ビル4階
【電話番号】	03(5332)5377(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 佐々木 悟
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第3四半期 連結累計期間	第15期 第3四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自平成25年1月1日 至平成25年9月30日	自平成26年1月1日 至平成26年9月30日	自平成25年1月1日 至平成25年12月31日
売上高 (千円)	1,471,354	1,670,472	2,904,560
経常利益 (千円)	74,712	116,515	110,111
四半期(当期)純利益 (千円)	41,459	103,474	259,801
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	41,643	103,728	260,079
純資産額 (千円)	1,264,276	1,618,836	1,485,633
総資産額 (千円)	1,679,460	1,913,215	1,725,460
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	4.27	10.34	26.54
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	10.10	26.45
自己資本比率 (%)	74.9	82.6	85.6

回次	第14期 第3四半期 連結会計期間	第15期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (円) ()	1.06	1.46

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 当社は、平成26年3月25日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

4. 第14期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当社の連結子会社である株式会社エルトレード（以下「甲」という）は、合同会社T.R.K（以下「乙」という）と平成24年6月22日に基本事業協定を締結し、平成24年10月2日に変更した内容の一部を、平成26年9月30日に変更いたしました。

変更前	変更後
乙は甲に対し、販売利益の20%を支払うこととする。ただし、利益の上限を、金800万円とする。	乙は甲に対し、販売利益の20%を支払うこととする。ただし、利益の上限は、再三の期限の延長があったこともあり利益を上乗せして金1,600万円とする。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、政府経済対策の効果を背景に、雇用・所得環境の改善等、一部に弱さも見られるが緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、企業収益改善の鈍化、海外景気の下振れや消費税率の引き上げに伴う駆け込み需要の反動等があり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

一方、当社グループの既存事業と密接に関連する新築マンション市場、特に首都圏マンション市場におきましては、平成26年9月累計の供給戸数が前年同期比26.8%減（民間調査機関調べ）となり、当第3四半期連結累計期間において厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のなか、マンションディベロッパー及び管理会社との取引関係のさらなる強化及び新規法人開拓の強化に注力してまいりました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,670百万円（前年同期比13.5%増）、営業利益117百万円（同53.1%増）、経常利益116百万円（同56.0%増）、四半期純利益103百万円（同149.6%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

ハウスクエア事業

ハウスクエア事業に関しましては、密接に関連する新築マンション市場、特に首都圏マンション市場が厳しい状況で推移したものの、マンションディベロッパー及び管理会社との取引関係のさらなる強化及び新規法人開拓の強化に注力したことなどにより、順調に推移いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるハウスクエア事業の業績は、売上高811百万円（前年同期比23.5%増）、営業利益201百万円（同79.1%増）となりました。

ビル総合管理事業

ビル総合管理事業に関しましては、営業体制の強化に伴う経費増があり、更なる顧客満足度の向上及び堅実な収益獲得を図りましたが、予想通りの利益を得られませんでした。

以上により、当第3四半期連結累計期間におけるビル総合管理事業の業績は、売上高723百万円（同1.6%増）、営業利益54百万円（同18.9%減）となりました。

総合不動産事業

総合不動産事業に関しましては、所有土地やマンションの売却はあったものの、継続的に販売可能な物件の仕入れに苦戦するとともに、販売用不動産の売却は後ズレする等厳しい状況で推移いたしました。

以上により、当第3四半期連結累計期間における総合不動産事業の業績は、売上高134百万円（同32.1%増）、営業損失11百万円（前年同四半期は営業利益1百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,767,200
計	19,767,200

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成26年11月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,011,300	10,011,300	東京証券取引所 JASDAQ (グロース)	単元株式数 100株
計	10,011,300	10,011,300	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	10,011,300	-	1,782,061	-	314,414

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,010,900	100,109	-
単元未満株式	普通株式 200	-	-
発行済株式総数	10,011,300	-	-
総株主の議決権	-	100,109	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,200株(議決権52個)含まれております。

【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
ルーデン・ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿7丁目22番36号	200	-	200	0.0
計	-	200	-	200	0.0

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、霞友有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	477,009	354,526
受取手形及び売掛金	203,943	221,527
商品及び製品	431	323
販売用不動産	69,773	281,372
仕掛販売用不動産	-	60,672
原材料及び貯蔵品	2,356	2,398
仕掛品	1,066	37
前渡金	179,191	209,842
短期貸付金	474,484	474,364
未収入金	131,468	145,828
その他	14,293	9,620
貸倒引当金	54,433	72,244
流動資産合計	1,499,584	1,688,269
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	88,866	88,866
減価償却累計額及び減損損失累計額	75,435	75,899
建物及び構築物(純額)	13,430	12,967
機械装置及び運搬具	1,696	1,538
減価償却累計額及び減損損失累計額	1,696	939
機械装置及び運搬具(純額)	0	599
工具、器具及び備品	17,495	18,305
減価償却累計額及び減損損失累計額	16,435	16,836
工具、器具及び備品(純額)	1,059	1,469
土地	3,248	3,248
リース資産	13,622	15,078
減価償却累計額及び減損損失累計額	6,547	7,550
リース資産(純額)	7,075	7,527
有形固定資産合計	24,813	25,811
無形固定資産		
のれん	23,310	15,241
その他	403	403
無形固定資産合計	23,714	15,645
投資その他の資産		
投資有価証券	30,114	30,405
出資金	82,181	82,181
破産更生債権等	620,838	624,457
その他	92,930	98,712
貸倒引当金	621,001	624,554
投資損失引当金	27,713	27,713
投資その他の資産合計	177,348	183,488
固定資産合計	225,876	224,946
資産合計	1,725,460	1,913,215

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,580	25,423
未払金	140,329	124,668
未払法人税等	24,518	25,055
預り金	7,624	5,573
賞与引当金	-	5,127
売上値引引当金	326	328
アフターコスト引当金	703	673
その他	28,622	75,531
流動負債合計	219,704	262,380
固定負債		
退職給付引当金	5,149	5,371
その他	14,973	26,627
固定負債合計	20,122	31,998
負債合計	239,827	294,379
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,782,061	1,782,061
資本剰余金	314,414	314,414
利益剰余金	619,725	516,250
自己株式	290	290
株主資本	1,476,459	1,579,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	152	101
その他の包括利益累計額合計	152	101
新株予約権	9,326	38,800
純資産合計	1,485,633	1,618,836
負債純資産合計	1,725,460	1,913,215

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
売上高	1,471,354	1,670,472
売上原価	796,515	879,339
売上総利益	674,839	791,132
販売費及び一般管理費	598,106	673,638
営業利益	76,733	117,494
営業外収益		
受取利息	17,758	17,764
受取配当金	23	24
その他	4,471	3,062
営業外収益合計	22,253	20,851
営業外費用		
支払利息	263	252
貸倒引当金繰入額	17,739	17,804
消費税控除対象外	3,474	3,314
その他	2,796	459
営業外費用合計	24,274	21,831
経常利益	74,712	116,515
特別利益		
違約手数料戻入益	-	15,800
特別利益合計	-	15,800
特別損失		
固定資産除却損	578	13
デリバティブ評価損	17,215	-
特別損失合計	17,793	13
税金等調整前四半期純利益	56,918	132,302
法人税、住民税及び事業税	15,853	29,007
法人税等調整額	394	180
法人税等合計	15,458	28,827
少数株主損益調整前四半期純利益	41,459	103,474
四半期純利益	41,459	103,474

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	41,459	103,474
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	183	254
その他の包括利益合計	183	254
四半期包括利益	41,643	103,728
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	41,643	103,728

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1. 売上高から次の金額が控除されております。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
売上値引引当金繰入額	99千円	105千円

2. 前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

当社グループの売上高は、主力事業であるハウスクエア事業において、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間にかけて集中し、増加する傾向があります。このため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

当社グループの売上高は、主力事業であるハウスクエア事業において、第1四半期連結会計期間から第2四半期連結会計期間にかけて集中し、増加する傾向があります。このため、各四半期連結会計期間の業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)
減価償却費	3,083千円	3,625千円
のれんの償却費	8,069千円	8,069千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成25年3月12日付で、西岡千栄子、西岡江美、西岡勇人及び株式会社カプセルデヴィジョンから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第1四半期連結会計期間において資本金が46,575千円、資本準備金が46,575千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,782,061千円、資本準備金314,414千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年1月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ハウスクエア 事業	ビル総合管理 事業	総合不動産 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	657,320	711,845	102,189	1,471,354	-	1,471,354
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	657,320	711,845	102,189	1,471,354	-	1,471,354
セグメント利益	112,407	66,774	1,063	180,245	103,512	76,733

(注)1. セグメント利益の調整額 103,512千円には、のれん償却額 8,069千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 95,443千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ハウスクエア 事業	ビル総合管理 事業	総合不動産 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	811,951	723,523	134,998	1,670,472	-	1,670,472
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	811,951	723,523	134,998	1,670,472	-	1,670,472
セグメント利益又は損失()	201,277	54,129	11,769	243,637	126,143	117,494

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 126,143千円には、のれん償却額 8,069千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 118,074千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	4円27銭	10円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	41,459	103,474
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	41,459	103,474
普通株式の期中平均株式数(株)	9,716,228	10,011,100
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	-	10円10銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	236,561
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 当社は、平成26年3月25日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。
2. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

(1) 決算日後の状況

特記事項はありません。

(2) 訴訟

当社は、平成26年9月2日、次のとおり提起されていた訴訟の判決が言い渡されました。

1. 訴訟が提起されるに至った経緯

原告である株式会社リプロス・スタッフ（当時A I F G株式会社）は、平成20年4月10日に当社元代表取締役福岡浩二氏及び当社元取締役であった星山和彦氏に対し、2億2000万円を貸し付け、返済期日である同年6月末日を経過しても返済されず、その際、当社を連帯保証人としていたため、連帯して、その返還を求め訴訟が提起されました。しかしながら、平成26年1月15日付「訴訟の提起に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、本件について契約書の存在もなく、貸金の振込先も当社ではない事、また、当社取締役会において本件が承認されたことの議事録も存在しない等、当社としては、本件訴訟を提起した根拠が全くないと主張しました。そして、原告は本請求の根拠を示すことがないまま、原告の請求を全て棄却する判決が言い渡されました。なお、原告である株式会社リプロス・スタッフ（当時A I F G株式会社）は、平成23年9月15日付の「訴訟の判決に関するお知らせ」にてお知らせしたとおり、当社が不正な出金の返還を求めた損害賠償等請求訴訟において、2億円の支払いの判決を受けた被告であり、判決当時の商号は日本メディカルケア株式会社であります。

2. 当該訴訟の判決があった裁判所及び年月日

東京地方裁判所 平成26年9月2日

3. 当該訴訟を提起した者（原告）

商号：株式会社リプロス・スタッフ
本店所在地：東京都港区虎ノ門五丁目12番8号
代表者の役職・氏名：代表取締役 古寺 誠一郎

4. 判決の内容

原告の請求をいずれも棄却する。
訴訟費用は原告の負担とする。

5. 今後の見通し

当該訴訟判決による平成26年12月期における当社グループの業績予想への影響はございませんが、今後開示すべき事項が発生した場合は速やかに開示いたします。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月13日

ルーデン・ホールディングス株式会社

取締役会 御中

霞友有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 藤原 澄人 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山崎 安通 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているルーデン・ホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成26年1月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ルーデン・ホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。